

みんないいひと体験講座 プログラム一覧



☆例示する体験プログラムは、全て1回の授業で行う場合を想定しています。
 ☆細かい内容や時間設定、掲載されていない内容について個別相談も承ります。

1 肢体不自由者（車いす利用者）の理解

名 称	肢体に障がいのある方の講話		No.1
内 容	肢体に障がいのある方から生活上の体験や児童・生徒にできるお手伝いについてお話をいただきます。		
適正な体験人数	全校児童・生徒でも可	体験に要する時間	30分程度
担当団体・個人	主に市内在住の肢体障がい当事者(車いす利用者)		
会 場	1階の教室又は体育館 ※ 控室を含めて1階で開催してください。		
必要な備品 注意事項等	① 車いす体験 (No.2)、ハンディキャブ・ボランティア号体験 (No.3) との併用も可能です。 ② 送迎をお願いする場合があります。 ③ 講師によっては、ビデオやプロジェクター等を使用する場合があります。 ※講話を撮影した映像教材 (7分半程度) も貸し出しています。		
謝礼の目安	講師1人当たり 1,000円～5,000円程度の現金又は金券		

名 称	車いす体験		No.2
内 容	車いすで学校内や近隣を通ることや簡単な介助の体験をもとに身近なバリアフリーについて考えます。		
適正な体験人数	40人以下	体験に要する時間	60分以上
担当団体・個人	市社協職員又は地域で福祉活動を行っているボランティア等 1～3人		
会 場	体育館又は校庭・学校外周 ※ 雨天の場合を考慮し、体育館又は室内 (例…1階の渡り廊下や教室) を必ず確保してください。		
必要な備品 注意事項等	① 車いす20台まで (市社協管理備品) ※2人に1台使用します。 ② 段差・スロープ・波状路 (市社協管理備品) ③ 体育館の場合、マット2枚～4枚・カラーコーン10個 (学校準備) ④ 動きやすい服装でお願いします。 ⑤ 講話が室内で、体験場所が屋外の場合は、履物の準備をお願いします。		
その他	車いすのみを貸し出し、先生が指導する方法もあります。 (この場合、車いすの運搬は、学校の先生にお願いしています。) その際は、指導法の冊子・DVD等も貸し出しています。(事前貸出可)		

名 称	ハンディキャブ・ボランティア号体験		No.3
内 容	障がいのある方の移動支援を行っているハンディキャブ・ボランティア号（車いすのまま乗れるリフト付きワゴン車）の体験から、市民の手によるボランティア、バリアフリーへの取組について学びます。 ※ 体験後に、車両購入のための資金積立ての支援として、使用済み切手収集等の取組も可能です。		
適正な体験人数	20人以下	体験に要する時間	60分以上
担当団体・個人	特定非営利活動法人 相模原ボランティア協会 http://sagamiva.info/	講師数	2人
会 場	教室と屋外（雨天等は体育館や校舎内等） ※ 初めに動画を視聴します。動画再生が可能な環境を御用意ください。		
必要な備品 注意事項等	① ハンディキャブ・ボランティア号（ボランティア協会所有車両） ② テレビもしくはスクリーン・プロジェクター（学校準備） ③ 障がいのある方への運行予定日は、対応ができません。		
謝礼の目安	講師 1人当たり 1,000円～2,000円程度の現金又は金券		



肢体に障がいのある当事者からの講話。
「すべての人が暮らしやすい社会」とは

体験を持ち帰ろう

体験日を授業参観日にする学校もあります。保護者の方も一緒に講話を聞いて、家庭でも体験を共有し、「障がい」について考えたという報告も。一回の授業だけで終わらせない工夫が大切。



日常から考える

普段自分が生活している場所。車いすに乗ることで感じる「違和感」や「不便さ」。それはどこから生じ、どうすれば無くなるのか。自身の生活の中で考えることで、他者への理解を育みながら、ともに生きる地域を考えます。



校舎やなじみの場所で体験することで他人事ではなく“自分事”として考える。

2. 視覚障がい者の理解

名 称	視覚に障がいのある方の講話		No.4
内 容	視覚に障がいのある方から、生活上の体験や児童・生徒にできるお手伝いについてお話をいただきます。		
適正な体験人数	全校児童・生徒でも可	体験に要する時間	20分～60分
担当団体・個人	主に市内在住の視覚障がい当事者	講師数	1人
会 場	教室又は体育館		
必要な備品 注意事項等	<p>① 送迎が必要な場合がありますので学校側で講師と調整をお願いします。</p> <p>② 視覚障がい者の理解についての体験（No.5～6）との併用も可能です。 例＞全体講話30分の後に、誘導・点字などのコースに分かれて体験を行う。</p> <p>③ 盲導犬利用者の講話を希望される場合は、希望日の2ヶ月以上前に御相談ください。（市内の盲導犬利用者が数名と限られており、お仕事の関係等で日程調整に時間を要する現状です）</p>		
謝礼の目安	講師1人当たり 1,000円～5,000円程度の現金又は金券 ※ 金券の場合、図書カードは避けてください。		

目が見えないってかわいそう？

目が見えないと聞くと「かわいそう」「何もできない」というイメージを持つ人もいます。

しかし、みんないいひと体験講座の講師は、仕事をしたり、スポーツや趣味を楽しんだり、ボランティア活動をしたり、イベントを企画開催したりと、生き生きと過ごしています。

「かわいそうな人」と終わらせてしまうことは、可能性から目を背けること。

目が見えない＝障がい ではなく、工夫や配慮が足りないことが障がいになります。



楽しいことを企画するのが得意な児玉さん。
この日はクリスマス用の
フラワーアレンジメント
教室を開催しました！



スポーツが得意な芥川さん。
陸上では国体にも出場する
ほどのスポーツマンです！



点字を打てば、
視覚障がい者の方も
百人一首を楽しむこと
ができます！

名 称	視覚障がい者誘導體験	No.5	
内 容	2人1組で、ガイドする側とガイドされる側を交互に体験し、体験を通して身近なバリアフリーについて考えます。		
適正な体験人数	40人以下（応相談）	体験に要する時間	60分以上
担当団体・個人	ささの会（ボランティア団体）	講師数	2～4人
会 場	教室と校庭・学校外周(雨天等の場合、校内等)		
必要な備品 注意事項等	① ガイド体験セット（市社協管理備品） アイマスク・白杖他・・・運搬に御協力をお願いします。 アイマスクで使用するハンカチ・ティッシュ（児童・生徒準備） ② DVD教材を貸し出しますので、事前に御視聴ください。 （事前に時間がつくれない場合は、当日の体験前に観ていただきます。） ③ <u>事前にささの会（1～2人）が学校を訪問し、打合せを行います。</u> ※ 毎月第2火曜日は、対応できません。		
謝礼の目安	講師1人当たり 1,000円～2,000円程度の現金又は金券		



「怖かった」で終わらせない
 アイマスク体験のあと「怖かった」という感想を持つ人もいます。しかし、体験のゴールは「怖さ」の確認ではありません。まず「感じ方」を知ること。そして、思いやりのある行動や工夫次第で「怖さ」は取り除くことができます。
 どんな工夫が考えられるでしょうか。



名 称	視覚障がい者点字体験	No.6	
内 容	点字の読み書きの体験から、視覚障がい者の生活や情報のバリアフリーについて考えます。		
適正な体験人数	30人以下（応相談）	体験に要する時間	60分以上
担当団体・個人	相模原市点訳赤十字奉仕団（ボランティア団体）	講師数	2人
会 場	一般教室		
必要な備品 注意事項等	① 点字器は、1人1台を学校で必ず御用意ください。市社協でも貸出可。 ② 点字用紙（特厚の用紙で代用可）を1人1枚以上御用意ください。 ③ 資料（A3・1/A4・1枚）は、当日までに人数分印刷し、A4の資料は必ず事前に読んでおいてください。 ※ 木曜日は、対応できません。		
謝礼の目安	講師1人当たり 1,000円～2,000円程度の現金又は金券		



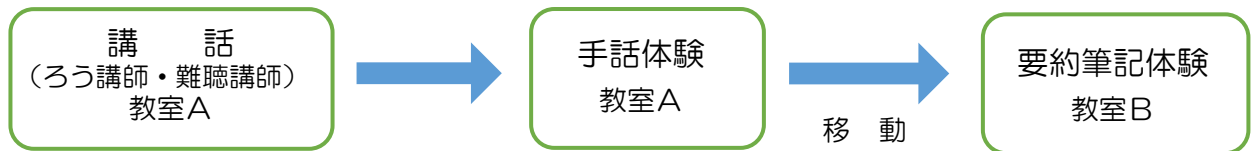
3. 聴覚障がい者の理解

名 称	聴覚障がい者とのコミュニケーションー1		No7
内 容	聴覚に障がいのある方の講話、簡単な手話、要約筆記について学び、聴覚に障がいのある方と一緒にコミュニケーションの方法について考えます。		
適正な体験人数	30人以下	体験に要する時間	90分以上
担当団体・個人	聴覚障がい当事者・手話通訳者 相模原市聴覚障がい者協会 筆記通訳サークルもみじ	講師数	6人：聴覚障がい者2人 手話通訳者1人 要約筆記者3人
会 場	一般教室（隣接する2教室必要・他の体験教室と離して配置）		
必要な備品 注意事項等	<p>① 講話20分・手話50分・要約筆記20分の合計90分の授業となります。※手話・要約筆記について短時間ですが、参加者全員が学べます。</p> <p>② 要約筆記では、OHC（市社協管理備品）、スクリーン（TV 代用可）、ロールペーパー（講師持参）を使用します。</p> <p>③ 要約筆記では、マジックペンとA4用紙3枚を人数分御用意ください。</p> <p>④ 手話の教室（教室A）は、人数分のイスのみ使用し、机は置きません。要約筆記の教室（教室B）は、机・イスが必要になります。</p> <p>⑤ ②～④については、講師との打合せ時に再確認してください。</p> <p>※ 木曜日は、対応できない場合があります。</p>		
謝礼の目安	講師1人当たり1,000円～2,000円程度の現金又は金券		

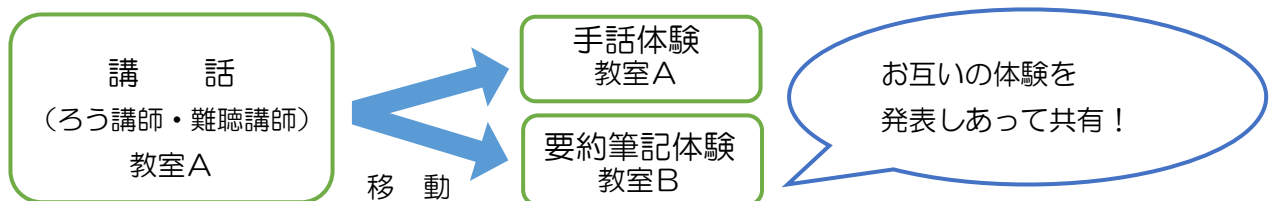
名 称	聴覚障がい者とのコミュニケーションー2		No.8
内 容	聴覚に障がいのある方の講話、簡単な手話、要約筆記について学び、聴覚に障がいのある方と一緒にコミュニケーションの方法について考えます。		
適正な体験人数	31人以上60人以下	体験に要する時間	90分以上
担当団体・個人	聴覚障がい当事者・手話通訳者 相模原市聴覚障がい者協会 筆記通訳サークルもみじ	講師数	6人：聴覚障がい者2人 手話通訳者1人 要約筆記者3人
会 場	一般教室（2教室必要・他の体験教室と離して配置）		
必要な備品 注意事項等	<p>① 講話（30分）を全員で聞いた後、手話コース（60分）と要約筆記コース（60分）に分かれ、合計90分の授業になります。※手話・要約筆記について多くの時間をとって学べます。</p> <p>② 要約筆記では、OHC（市社協管理備品）、スクリーン（TV 代用可）、ロールペーパーを使用します。</p> <p>③ 要約筆記は、ペンとA4用紙3～4枚を人数分御用意ください。</p> <p>④ 手話の教室（教室A）は、人数分のイスのみ使用し、机は置きません。要約筆記の教室（教室B）は、机・イスが必要になります。</p> <p>⑤ ②～④については、講師との打合せ時に再確認してください。</p> <p>※ 木曜日は、対応できない場合があります。</p>		
謝礼の目安	講師1人当たり1,000円～2,000円程度の現金又は金券		

名 称	聴覚に障がいのある方の講話		No.9
内 容	聴覚に障がいのある方の生活上の体験やコミュニケーションの方法についてお話をさせていただきます。		
適正な体験人数	全校児童・生徒でも可	体験に要する時間	20～60分
担当団体・個人	聴覚障がい当事者・手話通訳者 相模原市聴覚障がい者協会 筆記通訳サークルもみじ	講師数	5人：聴覚障がい者2人 手話通訳者1人 要約筆記者2人
会 場	教室又は体育館		
必要な備品 注意事項等	黒板（ホワイトボードでも可）とマイク（広いお部屋や大人数の場合）を御用意ください。		
謝礼の目安	聴覚に障がいのある方には、3,000円～5,000円程度、手話通訳者には、1人4,000円、要約筆記者には、1人3,500円の現金又は金券		

コミュニケーション1 ～30名程度
手話と要約筆記の両方を体験することができます。



コミュニケーション2 30～60名程度
全員で講話を聞き、手話と要約筆記それぞれ分かれて体験します。



**コミュニケーションは
すべてに通じる**

聴覚障がいは、外見からは分かりにくい障がいです。しかし、コミュニケーションの方法を知っていれば「誤解」を取り除くことができます。その方法は、手話以外にもたくさん！表情、指文字、ジェスチャー、口の動き…
多様なコミュニケーションを駆使することで、どんな場面にも通じる「他者を理解すること」の重要性と楽しさを感じてもらいます。



4. 高齢者の理解

名 称	高齢者理解についての講話		No. 10
内 容	市内の認知症関連の活動団体の方から、高齢者との接し方や自分たちにできることについてお話をいただきます。		
適正な体験人数	全校児童・生徒でも可	体験に要する時間	30分～
担当団体・個人	地域包括支援センター等関係機関		
講師数	体験人数によって調整します。		
会 場	教室又は体育館		
必要な備品 注意事項等	パソコン・プロジェクター・スクリーンを御用意ください。 (準備できない機材がある場合は、御相談ください。)		
謝礼の目安	講師 1 人当たり交通費程度の現金又は金券		

名 称	認知症サポーター養成講座		No. 11
内 容	市内の認知症関連の活動団体の方からのお話や、疑似体験を通して、高齢者との接し方や自分たちにできることについて考えます。		
適正な体験人数	100人以下	体験に要する時間	90分以上
担当団体・個人	相模原市キャラバン・メイト連絡会 https://caravanmate.jp/		
講師数	体験人数によって調整します。		
会 場	教室又は体育館		
必要な備品 注意事項等	① パソコン・プロジェクター・スクリーンを御用意ください。 (準備できない機材がある場合は、事前に御相談ください。) ② 後半は、グループワークを行います。 ③ 事前に講師が学校を訪問し、打合せを行います。その際、内容について相談することが可能です。 ④ 複数の学年にまたがる受講形態には、対応できません。		
謝礼の目安	講師 1 人当たり交通費程度の現金又は金券		
その他	受講者は、認知症サポーターとして認定され、その証として「サポートカード」をお渡しします。		

自分は認知症にならない?!

- | 認知症は自分には関係のないこと、遠い未来のことでしょうか。
- | 認知症には段階があります。寸劇やグループワーク、当事者や
- | 家族のお話から、その気持ちを想像します。子どもも、大人も、
- | 地域の中でのことが必ずあります!



名 称	高齢者疑似体験	No. 12	
内 容	高齢者疑似体験セット（エルダー・トライ）を通して、高齢者との接し方や、どのような配慮が大切なのかを考えます。		
適正な体験人数	40人以下	体験に要する時間	60分以上
担当団体・個人	開催校の先生		
会 場	一般教室又は校庭・校舎外周		
必要な備品 注意事項等	① 高齢者疑似体験セット（エルダー・トライ）…市社協管理備品 ② 視覚・聴覚等に関する日用品（学校準備） 例＞新聞紙、本（教科書でも可）、ラジオ、カセットデッキ等		
その他	市社協にて体験セットと指導の手引（事前配布可）を提供します。 原則として、体験セットのみを貸し出し、先生に指導していただきます。 体験だけでなく、他講座の講話とセットにすることもできます。		

できなくなることも、できることも

私たちは誰でも年を取ります。耳が遠くなり、目が見えにくくなり、体も重く、動きにくくなります。低下する身体機能にのみ注目すると、年を取ることのマイナスイメージにばかり意識が向いてしまいます。しかし、「自分らしさ」や「生きがい」までもが失われていくわけではありません。

家族や近所、自分の周りにいる高齢者に目を向け、幸せに暮らすための環境について考えることが、思いやりの心を育みます。



<主な体の変化>

目がかすみ
視野が狭くなる

耳が聞こえにくくなる

背骨が丸くなり
動きが遅くなる

指先の細かい
作業が難しくなる

肘や膝が
動きにくくなる

足やつま先が
上げにくくなる



90歳を超えても
ボランティア！
イベントの看板づくり



聞こえにくいなら
大きな声で
ゆっくり話せばいい！



歩きにくいなら
手を引いて
一緒に歩けばいい！



高齢者疑似体験セットは、偏った高齢者イメージを植えつけるための道具ではありません！お手軽な体験にせず、考えるきっかけとして御活用ください。

5. 共生社会の理解

名 称	「ともに生きる社会とは」 ～障がいを考える講話		No. 13
内 容	<p>地域の社会福祉施設の取組について知り、「障がい」「共生社会」について考え、「ともに生きる社会かながわ憲章」の理解を深めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津久井やまゆり園の紹介動画の上映 ・津久井やまゆり園の取組と利用者の生活について ・障がいのある方とのかかわりについて ・「ともに生きる社会かながわ憲章」について <p>○障がいへの理解を深め、偏見や差別をなくし、誰もが支え合いながら生きることができる「共にささえあい生きる社会」を実現するため、共生社会の理念、障がいについての考え方を学習することを目的とする。</p>		
適正な体験人数	全校児童・生徒でも可	体験に要する時間	60分程度
担当団体・個人	津久井やまゆり園園長、職員、利用者他		
講師数	体験人数によって調整します。		
会 場	教室又は体育館 ※津久井やまゆり園に直接来園しての実施も可		
必要な備品 注意事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクター等の投影設備（PowerPoint を使用するため） ・講話の内容等については、事前打合せにおいて確認。 ・オンライン開催可能 		
謝礼の目安	講師 1 人当たり交通費程度の現金又は金券		

名 称	福祉施設フィールドワーク		No. 14
内 容	<p>地域の社会福祉施設に実際に訪問し、施設の利用者と交流を図ることで「共生社会」についての理解を深めます。児童・生徒の事前／事後学習の場としてもご相談ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やまゆり園「鎮魂のモニュメント」への献花 ・やまゆり園利用者との交流、施設見学 ・やまゆり園の取組と利用者の生活について ・障がいのある方とのかかわりについて ・広場での昼食、休憩等 		
適正な体験人数	(要相談) 学年単位でも可	体験に要する時間	要相談
担当団体・個人	津久井やまゆり園園長、職員、利用者他		
会 場	津久井やまゆり園（相模原市緑区千木良476番地）		
必要な備品 注意事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・体験の内容等については、事前打合せにおいて確認。 ・小学校3年生以上から 		
謝礼の目安	原則不要		

6. その他

名 称	盲ろう体験		No.15
内 容	視覚及び聴覚に障がいのある方の疑似体験を通して、盲ろう者とのコミュニケーションについて考えます。		
適正な体験人数	30人以下	体験に要する時間	90分以上
担当団体・個人	盲ろう当事者 神奈川盲ろう者通訳・介助員	講師数	5人
会 場	一般教室		
必要な備品 注意事項等	① 体験人数分のアイマスク（市社協備品貸出可）が必要です。 ② 事前に資料をお渡ししますので、人数分の印刷をお願いします。 ③ ペアになって手の平書きをしますので、消毒資材を御用意ください。		
謝礼の目安	講師 1 人当たり 1,000 円～2,000 円程度の現金又は金券 ※ 金券の場合、当事者への謝礼として図書カードは避けてください。		

名 称	パラスポーツ体験		No.16
内 容	障がいの有無にかかわらずとも楽しむことができるフライングディスクを体験し、障がい者スポーツ支援のボランティアについて考えます。		
適正な体験人数	30人以下	体験に要する時間	100分以上
担当団体・個人	かながわ障がい者フライングディスク協会	講師数	3・4人
会 場	体育館		
必要な備品 注意事項等	① アイマスクで使用するハンカチ・ティッシュ（児童・生徒準備） ② 配付資料を人数分コピーし配付 ※ 水曜日が望ましい。		
用 具 代 謝礼の目安	フライングディスクの機材レンタル代（応相談）と講師謝礼2,000円（現金又は金券）		



一緒に楽しみながら

パラスポーツは「障がい者のスポーツ」と思っていないですか？

いえいえ、それだけではないんです！

ルールや環境を工夫すれば、障がいの有無を超えて、共に楽しむことができます！

一緒に競技を行いながら「障がい」について考えるきっかけをつくります。

名 称	災害時活動体験		No.17
内 容	地震や風水害等大規模災害時に活動するボランティアの講話や体験を通して災害時のボランティア活動について学びます。災害時だけでなく、平常時から私たちに何ができるのか、日常生活に結び付けて考えます。 体験 ・カードゲームによるシミュレーション ・ブルーシートを用いたテント設営やロープワーク など		
適正な体験人数	40人以下	体験に要する時間	90分以上
担当団体・個人	相模原災害ボランティアネットワーク (ボランティア団体)	講師数	5~6人
会 場	教室 と 校庭（晴天時）又は体育館（雨天時）		
必要な備品 注意事項等	① 資機材（教材、ブルーシートやロープ等）は、講師が運搬します。 ② DVD 上映が可能な教室の準備をお願いします。 ③ 雨天の場合は、教室で応急処置の方法などを学びます。		
謝礼の目安	講師 1 人当たり 1,000 円~2,000 円程度の現金又は金券		

災害に強い地域は普段の心がけから

令和元年東日本台風は、相模原市にも甚大な被害をもたらしました。そんな中、日本各地から沢山の人がボランティアにかけつけてくれました。これから何ができるのか、“災害が起きてから”ではなく、まずは“日ごろから”私たちにできることについて考えてみましょう。



名 称	LGBTQの理解		No. 18
内 容	性のあり方を、男性と女性の2つの枠組みではなく、一人ひとりに違いがあることを理解し、「自分らしさとは何か」「だれもが幸せに暮らせる社会とは何か」お互いの意見を交換しながら考えます。		
適正な体験人数	(要相談) 学年単位でも可	体験に要する時間	90分以上
担当団体・個人	からふるテラス	講師数	1~2人
会 場	教室等		
必要な備品 注意事項等	① 事前と事後にアンケートをお願いすることがあります。 ② 講師派遣には別途、申請書を提出していただきます。		
謝礼の目安	講師 1 人当たり 1,000 円~2,000 円程度の現金又は金券		

名 称	にじいろサポーターになろう（発達障がいの理解）		No. 19
内 容	自分の個性を色としてとらえるワークを中心に行います。ワークを通して自己を理解し、他者との違いに気付くことで、相手を知ろうとする心を育みます。同時に自分の色（個性）がわかることで自分の存在の大切さに気づくことができます。自己理解、他者理解を学んだ上で、発達に偏りのある人々の困り感、支援の方法をペープサートなどで学習します。親子企画、PTA企画にも是非御活用ください。		
適正な体験人数	自己理解ワークの際には、1グループ40人まで	体験に要する時間	45分以上
担当団体・個人	こそだてサポーターれいんぼうず（ボランティア団体）	講師数	2～5人
会 場	一般教室・多目的教室など		
必要な備品 注意事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・色鉛筆で色塗りのワークを行います。机など作業場が必要です。 ・自己理解ワークのみ 45分 ・自己理解ワーク+支援方法等について学ぶペープサートなど 90分 		
謝礼の目安	団体に3,000円程度の現金又は金券（応相談）		

名 称	福祉の仕事についての講話		No. 20
内 容	市内の福祉施設職員が実際に学校を訪れ、福祉の仕事の魅力を伝える出張授業を行います。将来の職業選択として、福祉の仕事を考えてるとともに、働くということの大切さ、責任、そして仕事を通して得られる、やりがい等の生の声を伝え、将来の職業観を育む機会となります。		
適正な体験人数	30人程度	体験に要する時間	約50分
担当団体・個人	高齢・障がい・保育施設で働く職員	講師数	1～2人
会 場	一般教室		
必要な備品 注意事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン、プロジェクター、スクリーンを御用意ください。 ※御用意いただけない場合は、御相談ください。 ・講座終了後にアンケートの記入に御協力いただきます。 		
謝 礼	不要		

ボランティアってかっこいい！

相模原市内には、たくさんのボランティアが、様々な活動に取り組んでいます。根底にあるのは、「みんなで支え合うこと」です。

ボランティアを知ることは、自分の住む地域の課題を知ること。地域の課題を知ることは、「自分に何ができるのか」を考えることへとつながります。



名 称	地域ボランティアによる講話		No. 21
内 容	子どもたちが生活する地域で活動しているボランティアの方のお話を伺い、身近な地域でのボランティア活動について理解を深めます。		
適正な体験人数	全校児童・生徒でも可	体験に要する時間	20分～60分
担当団体・個人	市内で活動するボランティア	講師数	1～3人
会 場	教室又は体育館		
必要な備品 注意事項等	資料等の配布や掲示等について、事前に講師の方々と打合せをお願いします。		
謝礼の目安	講師 1 人当たり 1,000 円～2,000 円程度、団体に対しては 3,000 円以上の現金又は金券		

名 称	ホームレス支援団体の講話		No.22
内 容	相模原市内でホームレスを支援している団体の方々のお話を聞き、市内のホームレス支援の現状と人権について考えます。		
適正な体験人数	全校児童・生徒でも可	体験に要する時間	45分以上
担当団体・個人	木曜パトロールの会（ボランティア団体）	講師数	1～3人
会 場	教室又は体育館		
必要な備品 注意事項等	資料等の配布や掲示等について、事前に講師の方々と打合せをお願いします。		
謝礼の目安	講師 1 人当たり 1,000 円～2,000 円程度の現金又は金券		

名 称	赤い羽根共同募金についての講話		No.23
内 容	日頃、御協力いただいている赤い羽根共同募金について、その仕組みや使い道について説明を行います。		
適正な体験人数	全校児童・生徒でも可	体験に要する時間	45分以上
担当団体・個人	神奈川県共同募金会相模原市支会	講師数	1人
会 場	教室又は体育館		
必要な備品 注意事項等	① ビデオ上映が可能な教室の準備をお願いします。 ② 募金活動の準備実施期間の 9 月～12 月は、対応できない場合があります。		
謝礼の目安	不要		

名 称	地雷廃絶についての講話		No. 24
内 容	地雷被害によって障がいを負う子どもの状況等、地雷問題の現状や世界の地雷廃絶活動について学ぶ機会を提供します。 (生徒・学生の事務局訪問も受け入れています。)		
適正な体験人数	全校児童・生徒も可。	体験に要する時間	60分以上
担当団体・個人	地雷廃絶日本キャンペーン http://www.jcbl-ngo.org/	講師数	1~2人
会 場	教室又は体育館		
必要な備品 注意事項等	①申込みは、直接団体にお申込みください。(ホームページ・電話・FAXから申込みできますが、詳しくは、下記にお問合せください。) 電話 03-3834-4340(月~金曜日 午後1時~5時) ②資料等の配布や掲示等について、事前に講師と打合せをお願いします。		
謝礼の目安	謝礼は、原則講師1人につき1万円としていますが、予算の御相談に応じられる場合もあります。		

名 称	依存症についての講話		No. 25
内 容	薬物・アルコール・ギャンブルなどに依存した経験のある方の体験談や、サポートをしている施設の方のお話を聞き、啓発につなげます。		
適正な体験人数	全校児童・生徒も可。	体験に要する時間	60分以上
担当団体・個人	相模原ダルク http://s-darc.com/	講師数	2~3人
会 場	一般教室・体育館など		
必要な備品 注意事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン、プロジェクター、スクリーン(テレビ)を御用意ください。 ・大きい会場の場合はマイクを御用意ください。 ・授業実施希望日の2ヶ月以上前に御連絡をお願いします。 		
謝礼の目安	応相談(学校の予算に応じます)		

他人事ではない



テレビや新聞で、薬物に関する報道が流れ、時に、中学生や高校生が逮捕されるという衝撃的なニュースを目にすることも。
薬物に依存するきっかけが日常生活に多く存在することを知り、「絶対にやらない」という強い意志を持つために、体験談から学びます。さらに、体験者が社会復帰を目指す過程からは、私たちの人格や人権は誰にも否定できないこと、元の生活を取り戻すためには、家族や友達、周囲の人の支えが不可欠であることを伝えます。

事前学習の例

興味を持って体験してもらうために、事前学習が効果的です！意欲的に体験に取り組むことができ、受講後の質問や意見もたくさんあがります。



はがき新聞

インターネットや本などで事前にテーマについて調べて学習をし、はがきサイズの新聞にまとめて掲示。

障がい者理解促進DVD

「心のバリアフリー」をテーマに社協が作成したDVDです。貸出し可能なので、御希望の場合はお問合せください。



事後学習の例

体験前に抱いていたイメージの変化や、今後どのような取組をしていきたいかなど、発信することで学びはさらに深まり、「生きた体験」となります。

感想文・講師への手紙

体験を通じた気づき、新たな疑問など率直に書いてください。自身のふりかえりにもなります。

発表会

調べたこと、体験して感じたこと、これからやってみようことなどをまとめ、発表することで、他の人の気づきも共有できます。



イベント・ワークショップの企画

学習したことを元に、友だちや保護者、地域に住む方などに向けたイベントやワークショップを開催例）
 ・お祭りを企画し、講師や地域の方を招待した。
 ・学習の成果物を地域のショッピングセンターに掲示した。

